

私は、この時点で学校に対してかなりの不信感を持つようになっており、昨年11月に、校長が「市教委が『訪問支援員は教室に入ることができない』と言った」と言ったこともうそに違いないと思いました。私たちは、市教委の判断ということでしぶしぶ校長に言われた支援内容を受け入れた(最初に電話に出た妻は、校長に猛抗議していましたし、電話を代わった私も「校長判断」と聞いていたら了解したはずがありません)のです。だまされたとの思いから、このことについて追及しようと思いました。以下、そのやりとりです。

	私	→ 担任	「昨年11月、校長から『市教委に”訪問支援員は教室に入れない”と言われた。』との説明を受けた、そう言った市教委の方の名前を教えて欲しい。」とお願いをする。	
	私	← 担任	「調べて回答する」と言う。	
2019年7月17日	私	← 担任	「校長が2018年11月と今回の2回、市教委△△課□□□□室に確認したところ、『あるべき姿としては、…訪問支援員が子供の支援に入っていたことは難しいが、支援をよりよくするために関わっていただくのはよい。』との回答があった。この回答をもとに『訪問支援員は教室に入らせない』との校長判断をした。校長は、昨年そう説明したと言っている。」と電話で回答がある。	
	私	→ 担任	「いや、校長は、『訪問支援員が教室に入れない』というのは市教委の判断と説明をしていた。”校長判断”とは聞いていない。では、どういう理由で校長判断をしたのか説明して欲しい」と抗議。	
	私	← 担任	「教室に他の子がいるので」と言う。	
	私	→ 担任	「『教室に他の子がいる』は説明になっていない。校長判断と言われてもこちらも児童福祉法で権利が保障されているので譲れない。クラスメートの保護者全員から同意を得られたら入らせてもらえるのか。誰が教室に入れて誰が入れないのかという基準を示して(見せて)欲しい。なぜ素人の支援員は入ることができてプロである訪問支援員は入ることができないのかを説明して欲しい。学校のやっていることは嫌がらせにしか見えない。このままだと解決しないのでお互いに譲歩しあうというのはどうか。」と言う。	
2019年7月18日	私	→ 学校	校長と担任に対して、7月17日の私の譲歩についての発言を撤回し、7月17日に求めた説明についても現段階で回答しなくてよいと書面で通知。	徹底的に争っていかうという考えになりました。